

国際問題研究紀要 50 周年記念号の発刊に寄せて

愛知大学は昭和 21 (1946) 年 11 月に、戦後の日本の再建に資すべき国際的教養と視野を持った人材を育成しようとの目的で創設され、これを受けて 2 年後の昭和 23 (1948) 年 6 月に国際問題の学術的研究のために国際問題研究所が設立された。それ以来着実に研究活動を行なってきたが、本年目出度く研究所創立 50 周年を迎えたので、ここに「紀要」の 50 周年記念号を刊行することとした。また 11 月には、世界人権宣言 50 周年と合わせて、「世界人権宣言 50 周年シンポジウム：アジアにおける人権思想」を開催した。

改めて思うに、50 年というのは大した年数であり、大きな区切りでもある。これを記念して「紀要」の特別企画を立てることも考えられなくはなかったが、本学の伝統ではさりげなく記念号を編集することが自然であると思われ、原稿の募集もその趣旨で行なわれた。ただ、記念号であることを考えて、創立のころの事情に詳しい池上貞一・名誉教授を煩わせて回顧録をお寄せ頂いた。各筆者には本号が記念号であることを念頭に置いて力作を寄稿頂くようお願いし、その結果、ご覧のようなバラエティーに富んだ論集が出来上がった。その出来映えについては、読者諸賢のご判断を仰ぐしかなく、忌憚のないご批判、ご叱正をお寄せ頂ければ幸いである。

これを機会に、現在 80 人ほどの研究所員は今後一層の研鑽を積んで、対外的にも研究上の交流を広め且つ深めて行きたいと考えている。

平成 10 (1998) 年 12 月 7 日

愛知大学国際問題研究所長

三好 正弘